

第5回伊勢原市青少年育成審議会 会議録

〔事務局〕 子ども部青少年課

〔開催日時〕 平成28年12月26日（月）午後7時～9時

〔開催場所〕 伊勢原市青少年センター2階 工芸室

〔出席者〕

（委員） 芦原秀人、宮森孝史、冨塚 正、山元朋美、若松 操、錦織 勝、
平田順子、玉井ふみ子、河口友喜、峰 孝一、小澤寛治、
上條茉莉子、青木清徳、高橋一枝

（事務局） 子ども部長、青少年課長 外1名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0名

《審議の経過》

1 開会

（事務局） 青少年課長

（会 長） あいさつ

2 議事

（1）報告事項

成人式の開催について

○事務局から平成29年1月9日に挙げる成人式の内容等について説明した。

（2）協議事項

子ども・若者を育てる地域社会づくり（子ども会・放課後子ども教室のあり方）

○事務局から前回の審議会の協議内容を説明し、前回に引き続き子ども会の課題解決から協議を始めることとした。

（会 長） 加入率の低下等、子ども会の運営に関する課題がありますが、今後の子ども会の運営について話し合いたいと思います。

（委 員） 私の地区の子ども会は休止状態です。会長にお手伝いしますと話しかけますが活動はしていません。ここ何年かはどうしていいかわからない状態です。できれば相手から話を進めてほしいです。

- (委員) こちらから頼むと相手はどうしたらいいのか分からなくなるので、こちらから良い案を提示してみてもいいですか。
- (委員) 忙しいと言って動かない状態が3年以上続いています。周囲は困惑しています。支え合い、バックアップしたいと考えていますが、難しい状況です。
- (委員) 私の地区では、自治会の中に子ども会が関係団体として入っているので、いろいろな相談を受けます。例えば、お祭りのことで相談されることもあります。
- (会長) 自治会と子ども会の関係が密ではないところがあるのですか。
- (委員) ほとんどがそうではないでしょうか。
- (委員) お祭りなどをやっているところは、連携が取れているようです。
- (会長) 自治会と子ども会の関係を密にするというの、一つの方法かもしれません。
- (委員) ただ、一方通行では難しいと思います。
- (会長) こういう例が増えるかもしれないので、子ども会に対し自治会の方から関係づくりを進める方向がいいのでしょうか。
- (委員) 自治会の傘下に入ってしまうと、協力体制ができます。
- (委員) 聞いた話ですが、ある地区で自治会組織に子ども部を作って、その中の何人かが主体で子ども会を動かすようにしているようです。
- (委員) 自治会の中の子ども会であり、本来の子ども会という組織とは違うようです。
- (会長) どちらにしても、地域の子どもたちを育てるという意味で組織づくりを考えなくてはならないと思います。
- (委員) 今の親は忙しすぎて、自分の子どもですらまともに話を聞くことができないということを聞きます。周りの大人がなんとかすべきと思います。
- (会長) 自治会と子ども会がいろいろな方法を取りながら、連携を密にすることはいいと思います。
- (委員) この前、クリスマス会に招待されました。ジュニアリーダーの子どもたちが頑張っていました。
- (委員) 桜台地区の子ども会は休会中ですが、小学校4年生の保護者が中心になって、自治会と協力して、お祭りやもちつき、どんど焼きなどのいろいろな行事を行っています。以前は、同じ役員がずっとやっていましたが、今は担当の学年が毎年変わり、従事者を変えながらうまく活動が続いているようです。
- (会長) 次に放課後子ども教室についての協議に進みたいと思います。

○事務局から放課後子ども教室の事業概要や事業実績、アンケート調査結果、現状や課題などについて説明した。

(会 長) まず、放課後子ども教室の運営方法について、御意見をお願いします。

(会 長) これまで見学した、運営に関わったという方いますか。

(委 員) かなり前ですが、いせはら教室で顕微鏡を使う活動を見ました。子どもたちを大人がフォローしていました。ごく初期のころなのでその後は分かりません。

(委 員) 所属する会のメンバーがドッジビーを行いました。子どもたちはとても楽しそうにしているということを知りました。

(委 員) いせはら教室で漢字教室を始め、いしだ教室でも実施しました。子どもは非常に元気な時もありますが、楽しく参加してもらいたいと思います。現時点ではプログラム中心の運営ですから、週1回の実施を続けるのは難しいと思います。

(会 長) 週1回の実施というのはいかがですか。

(委 員) 輪番制ならできると思います。

(委 員) もっと多くの方を協力者として確保したらできるかもしれません。

(会 長) 2回ほど見学しましたが、子どもとシニアの関わりを見ていて、子どもとの交流経験のある方は、注意が必要な子どもに対してきちんと対話ができているようでした。どんな子もフォローしながら見ていくのはとてもいいのですが、スタッフが少ないので大変そうな気がしました。スタッフを確保するために、人材バンクにたくさん登録してもらい、その人が協力したら週1回できるかもしれません。週1回はいい計画だと思います。協力する方もそのリズムに慣れてきます。

次にプログラム中心の実施内容というのはどうですか。

(事務局) いせはら教室といしだ教室は、これまでプログラム中心に実施してきました。それが楽しみで来る子どももいますが、与えられたものに参加するだけで、子どもたちに選択肢はないということになります。自由活動にすると、本当にやりたいことを自分の考えでやることになります。平成28年度に実施を始めたたけぞの教室には試行を含めて自由活動を取り入れてみました。始めから終わりまで自分の意思で活動するのもいいのではないかと思います。他市では、大人が見守りをするだけで、プログラムは行っていないところもあります。

(会 長) スタッフの人数によって、どちらもできるということでしょうか。自由遊びを望んでいる子どもたちもいるでしょうから。

- (委員) わざわざ、自分がやりたくないものをするよりは、自分がやりたいことをやれるというのは選択肢が増えますね。
- (委員) 「将棋がやりたくてきたのに」と言って、プログラムを楽しめなかった子どもがいました。しかし、そういうことは一度だけで、その後は通ってきています。馴染んだのでしょうか。
- (委員) アンケート調査結果の中で「お子さんは、放課後子ども教室に参加するようになって、ご家庭での様子や過ごし方に変化はありましたか」というのがありますが、具体的にはどういう変化があったのですか。
- (事務局) 主なものとして、「家庭での会話が増えた」、「様々ことを積極的に行うようになった」、「学校に行くのを楽しみにするようになった」という変化がありました。
- (会長) どんなことも慣れるまではよい所が分からないこともある。このアンケートは保護者に渡っていますか。
- (事務局) 結果は全て保護者に報告しています。
- (会長) 先ほど週1回の実施は難しいという指摘がありました。プログラム中心の実施内容もいい。アンケートの中にも自由に遊べるのもいいという内容もありました。両方兼ね備えるには人材確保しかないかなと思います。運営について地域住民が協力するという点についてどうですか。
- (委員) 公民館活動で教えていらっしゃる方はどうですか。
- (委員) 公民館活動などを行っている方たちは、自分達のことでも精一杯かもしれません。
- (会長) 放課後子ども教室は、いせはら教室からスタートして4年目ですが、認知度が高くなってくると違うと思います。認知度を高めることが大事だと思います。放課後子ども教室のお便りなどはありますか。
- (事務局) 過去に出した時もありますが、今はお休みしています。
- (委員) 回覧板で「こういう人を求めています」などと回覧していますか。
- (事務局) 新規開設する時には、地域にお願いして、スタッフ募集の回覧をしました。それ以降は、広報やホームページ、児童に配付する毎月のプログラム一覧にスタッフ募集のお知らせをしていますが、なかなか集まらない状況です。
- (委員) 保護者の方は仕事をしているから難しいと思います。月1回の自治会の集まりにちらしを1枚渡して印刷と配布をお願いすることはできないのでしょうか。
- (委員) 自治会では毎月理事会があります。必要ならできるかもしれませんが、自治会も多方面からあれをしてほしい、これをしてほしいと願

いごとが多く、厳しいです。

(会 長) 自治会で、老人クラブの「ラジオ体操同好会」に参加しています。その呼びかけのちらしは、自分で印刷して渡しています。いずれにしても認知してもらうためにいろんな方法が必要でしょう。

(委 員) 目に触れないとなかなか伝わらないことがたくさんあると思います。逆に年配で暇をもてあましている方がいると思います。

(会 長) 次に放課後子ども教室の課題解決と理想の実現に向けた対応に移ります。

課題は3つあります。1つ目の保護者世代の協力者確保及び後継者育成については、これまで意見が出ましたので、2つ目の児童コミュニティクラブとの一体型運営の推進について協議を行います。

(委 員) このことについて、私はいいことだと思います。現場に児コミのスタッフがいますので、手伝ってもらえるとよいと思います。

(委 員) 児コミは有料、放課後子ども教室は無料ですから、難しい面があると思います。

(委 員) 児コミの方と知り合いだったので、以前、児コミの子どもたちと一緒に遊ぼうとしたら、「けが等があると困るので一緒に遊べない」と言われたことがありました。いろいろと事情があるのだなと感じました。

(会 長) 放課後子ども教室と児コミはそれぞれのルールに基づいて事業をやっている、放課後子ども教室の活動に児コミの児童が参加できる一体型の運営はいいと思いますが、これを一つにまとめるために、お互いのルールの擦り合わせはできるのでしょうか。安全面に配慮して、児コミの支援員が子ども達を自由に遊ばせておくことはできないと思います。

(委 員) どのように実現させるか。一つにまとめるのは難しいと思います。

(会 長) 3つ目の課題です。将来地域主体の事業として運営されるための方法について、何かありますか。

(会 長) 特に無いようですので、次に移ります。

政策提言書（案）について協議を行います。

○事務局から、政策提言書（案）の構成や記述内容について説明した。

(会 長) 政策提言書（案）について、何か意見はありますか。

(会 長) 単位子ども会の記述で、団体数や会員数が不明となっていますが、自治会や学校等に頼んで実態を調べ、現状を明らかにする必要があると思います。

- (委員) 市子連に加入しなくても、子ども会が存在するところがあります。
- (会長) 市子連に加入しているか否かでなく、地域の中で子ども会が活動しているかどうかの情報が大切だと思います。
- (委員) 自治会長は知っているのでしょうか。
- (委員) 支部長さんも分かるかどうか。
- (委員) 学校から、子ども会のちらしが配布されています。
- (会長) 比々多と桜台の地区子連が休会しているのは分かっていますが、その他8地区がどのような状況であるのかは分かりません。各地区子ども会がいくつの単位子ども会で活動しているのかを明らかにすると、子ども会の衰退状況が分かってきます。把握できたら政策提言書に載せてください。
- (委員) 地区社協があるといいです。平塚では何年も前からあって、活動支援のための予算がついています。その中でたくさんの団体が活動しています。伊勢原にもあればいいと思います。理想でしょうが。
- (委員) 役員になる男性を増やすという理想は高いけれど、増やすためにどのような努力をしなければならぬかを考えなければなりません。
- (委員) 保護者は忙しそうです。
- (委員) なり手が少なく、自治会の中でも役員を探すのは大変です。
- (会長) 人材バンクが認知され、登録を増やすことで、役員も増やすことができるという考えがあります。男性の登録者も増やせるだろうと考えます。その中で新しい工夫が生まれ、男性役員を増やせるかもしれません。
- (委員) 小学校の本部役員の男性OBは、今まで培ってきたものがあるので、動きが分かっています。そういう人に呼び掛けたらどうですか。
- (会長) 人材バンクを実施する時、公に宣伝するのも方法だし、各団体に呼び掛ける案内状を工夫するというのもあります。
- (委員) 現場を見てもらうのが早いと思います。放課後子ども教室と言われても何のことかと思うでしょう。
- (委員) 男性の保護者の役員を増やすことができれば非常にいいことですが、保護者の男性は働き盛りで難しいと思います。こういう方を引っ張り出すには、インターネットの会議などをすることも考えられます。実際に動けるのは、シニアの男性だと思います。預ける側は、シニアの方の子育ての知識は古いと思っているようです。新しい知識が無いかもしれないので、指導者養成講座などで、現代の子育ての知識などを身につけてもらい実際に活動していただきます。また、関心をもってもらうために、スマホでの参加の仕方やインターネット会議等のツー

ルを使って、関心のある人は意見を言ったり、参加したりするようにします。シニアの方は充分活躍できると思います。シニア世代と子どもたちが触れ合うことはとてもいいことなので、やり方を工夫することだと思います。

(会長) 体の協力を求めるだけではないということですね。

(委員) ノウハウなどの情報を集めたりすることもできます。忙しいから関心がないと決めず、その意識を上手に集めることだと思います。

(委員) 保護者はこういうことをやってもらいたいと考えているでしょうから。

(会長) 意見を聞く機会は、常時あった方がいいと思います。提案が通るか通らないかは別として、学校等のちらしに載せてもらって放課後子ども教室の見学会をやってみるのはどうでしょうか。そうすると事業に関心のある人が見つかるかもしれません。見学会はあった方がいいと考えます。

(委員) 1つの子ども会や放課後子ども教室を運営するために、マネジメントは大事なので、責任者をしっかり置いて育てることが大事です。いろいろな問題が発生するので、しっかりマネジメントする必要があります。どんどんオープンにしていく中で、常に運営責任者が必要だと思います。常時参加できない人がいる場合もあるので、交替でもいいのですが、支障が出ないように運営するための責任者は必要だと思います。

(委員) シルバー人材センターには豊富な人材がいます。実際に仕事をもっている方は少ないので、そういうところに声をかける方法もあると思います。

(事務局) いしだ教室とたけぞの教室では、シルバー人材センターの方に業務として協力していただいています。

(委員) シルバー人材センターにお願いすれば、ボランティアもやってもらえる可能性はあります。道灌まつりでもシルバーの方がボランティアとして活動していました。

(会長) 子ども会の存続について、私たちの年代は心配していますが、現状はほとんど伝わっていないと思います。気になっていても、一歩が踏み出せないのではないのでしょうか。現状をこうするという取り組みは大事でしょう。

(委員) 市のホームページで放課後子ども教室などの事業の情報を掲載するところがありますか。事業を実施しているというお知らせを出されていますか。

(事務局) 情報は各部署から出されています。

(委員) 青少年課を見てみて、こういうのをやっているということですか。いきなり放課後子ども教室をクリックするというわけではないのですね。だとすると、最初から情報は取れないですね。どこかに貼ってあるといいですね。あとは、伊勢原市のツイッターがありましたね。男性がツイッターから放課後子ども教室の情報を得ることができたら広がっていくと思います。

(委員) 年配の方がPCを使えるかどうか疑問があります。

(会長) 意識のある方は探して見ることはできますが、紙ベースも伝わりやすいと思うので両方必要だと思います。時々学校便りを見ることがあります。保護者は学校便りを見ると思うので、2か月に1度でも情報載せてもらったかどうかと思います。また、地区に回覧等で情報を出していくことも大事だと思います。

(委員) 回覧は意外と見ていただけないようです。

(会長) 地道にやるしかありません。

(委員) 防災無線はどうですか。

(委員) それは無理でしょう。体育祭の中止の放送もダメでした。

(委員) 話は変わりますが、表紙のイラストは伊勢原に関係するものかいいと思います。

(会長) これはまた替わるかもしれません。いい意見はありますか。

(委員) 市内のいい景色やこま、クルリンなどはいかがですか。

(会長) 今回みなさんにいろいろな意見や改善点を出していただきました。次回はそれを基に政策提言書の修正版を提示して皆で協議します。他に何かありますか。

(委員) 放課後子ども教室は5年前の審議会提言をして始まったもので、皆さんが頑張ってくださったので、より充実していると思います。

(会長) 先日の市長の話で、多くの市町村で人口が減っている中で、伊勢原市では増えていると聞きました。将来に向けて我々が子育て世代を応援していくことが大事だと思います。子育てをしやすくなる提案をしていけたらと思います。

(事務局) 次回は2月16日(木)19時から開催します。内容は政策提言書の最終校正を予定しています。

4 閉会

(副会長) 今年はいろんなことがあったなと思います。悲しい事件も多数ありました。

伊勢原市はまとまりのある市で、規模もそれほど変動なく、他の市

町村に比べて安心安全の点で安定していると思います。そういう点で何か言えるだろうと思います。

このような話に関わってきて、学校と子どもが地域社会から離れ過ぎていると感じていました。大人はいかに子どもに目を向けていられるか、意識していないと忘れてしまいます。その辺りをどう引き出すかが協議のテーマになってきたと思います。

以前、審議会で提言した放課後子ども教室が4つ目に増える予定だと聞きました。だんだんと定着してきているのはうれしいことです。

今後も皆様の御協力をお願いします。